
誰のせい？

湖真子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

誰のせい？

【コード】

N2964K

【作者名】

湖真子

【あらすじ】

何故だか分からない・・・彼女の事が気になってしかたがない。そんな少年視点の初恋話です。

(前書き)

初の小説です。
淡い初恋の話です。

なぜだろう・・・？

僕は何時から、こんなにも・・・。

そんなとりとめもないことを考えては・・・考えていたのだろう。ちよっとした瞬間、つい僕は思考の世界へ入ってしまうのだ。

「どうしたの・・・？」

心配そうに彼女は僕の顔を覗き込んだ。

「なんでもない！」

と、僕は慌てて首を横に振っても彼女は心配そうな顔をして、額と額をくつつけた。

「っ！！」

僕の心臓はどつくんどつくんいつて、今にも口から出て行きそうな状況になる。

静まれ心臓・・・静まれっ！！

僕は思わず両手で自分の胸を押さえた。

「うーん・・・熱はないなあ・・・。」

そう言って、彼女はおでこを離れた。

ほっと、息をつく暇もなく彼女は両手を僕のほほを挟んでじっと見つめる。

「・・・？顔熱いよ？」

「きっ・・・気のせい！」

どつくんどつくん言う僕の心臓。

体が熱くて今にも倒れそうだ。

もう・・・どうなってるんだよう・・・

「顔真っ赤だけど・・・？」

「・・・」

降参だ。

だって、この不思議な現象は誰が起こしていると思う？

そう……

「君のせいだよ……」

とても小さな声で僕は言った。

「え……？」

何時からだかは分からないけど……。
でも僕は……。

「どーいうことっ!!私のせいってっ!!」
彼女も顔を真っ赤にした。でも理由は僕とは違う。
それでも僕はうれしくなって、こういったんだ。

神だけが知ることだから……

「神っ?……ばかにしてるでしょう!」

彼女は怒りながら僕の肩を叩く。

いいじゃないか……

だって、僕はつかドキドキしてずるい。

それでも僕は彼女を嫌いにはなれない。

あーあ……

ほれた弱みってこと?

こうなったら……

いつも彼女がときどきするような……

男になってやる。
今に見てるよ……？

3ヶ月が経つと、彼女と同じ目線から脱出した。成長期とは恐ろしいもので、たったの3ヶ月で彼女との身長差は15cmとなった。嬉しいような……悲しいような……

今まで、何もしなくても目の前にあった彼女の顔は僕が少し目線を下げるか、彼女が少し上を見てくれないと顔を見つめる事が出来ない……。

それに……
ここ最近、どうも僕は避けられている。
なぜなんだろう……。

しんっ……と静まり変えた夕方の公園。

そこで僕は、久し振りに彼女に会った。

お使いの帰りらしく、手にはスーパールの袋を提げている。
そういう僕は、愛犬との散歩の途中だったりする。

「……久し振りだね……。」

「あっ……うん。」

僕の言葉に歯切れの悪い返事を返した。

僕のこと嫌いになったのだろうか……？

そう思うと、胸がズキツト痛み出す。

彼女は僕から目線を避けて、

「わ……私急いでるから……！」

と、言っただけで走っていく。

行かないで……!!

心の中で「行かないで」と思った瞬間、僕は彼女の腕をつかんでい
た。

「何で逃げるんだ! ……そんなに僕のこと嫌いになった?」

無我夢中だった。

「逃げてない!」

「うそだつ! 前なら……どんなに急いでも犬の頭を撫でてたじや
ないか! それに……なんで僕を見ようとしなんだ……?」

今も、彼女視線は僕じゃない所へそそがれている。

それが……とてもつらかった。

「ばふっ!」

突然、僕の愛犬がいきなり飛びついてきた。

身長が僕よりもある犬。

僕たちは、地面に崩れた。そして、ぺろぺろと彼女の顔をなめ始め
た。

「きやははっ! やめ……くすぐりたい!」

彼女は犬の頭を撫でながら笑っている。

久し振りに聞いた……彼女の笑い声。

ドキドキと高鳴る……僕の心臓。

「やめ……! きゃあはははっ!」

僕は手のひらに小石の感覚を感じながら彼女を見つめていた。

「ちよっ……見てないで助けてよ……!」

「僕んちの犬は君の事が大好きだから……無理……かな?」

「なによそれー! あっ……だめだつてば!」

「……くっ……あははははは……」

僕はおなかを抱えて大笑いした。

「おいでっ!」

「ばふん!」

僕が呼ぶと愛犬は満足したのか彼女と戯れるのをやめて、僕のとこ
ろまで来た。

(後書き)

読んでくださいますと有難う御座います。
登場人物の名前を考えてませんでした。

・
・
・
・
・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2964k/>

誰のせい？

2010年10月10日16時18分発行